


「関東食育連携プラットフォーム～この指とまれ！～」エントリーシート(関東農政局)

■ 活動紹介

団体名等	東京家政大学 ヒューマンライフ支援センター		
事業内容	東京家政大学の生活に根差した専門性(栄養・児童保育・服飾・デザイン・英語・福祉・心理・看護・介護)の学びを地域のニーズと結び付けてコミュニティビジネスとして展開しています。地域(企業・行政・その他)と学生が共に学び合い、支え合い、共存共栄していける事業をコーディネートしています。		
所在地	〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1	ホームページ等	http://www.tokyo-kasei.ac.jp/hulip/
電話番号	03-3961-5274	F A X	03-3961-5922
担当者	内野美恵	E - m a i l	hulip@tokyo-kasei.ac.jp
食育活動 (連携事例を含む)	<ul style="list-style-type: none"> * 産学官連携メニュー開発・コンテスト事業・食育関連商品開発・食育イベント企画・編集・デザイン * 食育教材・大学オリジナル商品の開発事業 * 東京都板橋区との連携事業「地域子育て支援事業(東京家政大学森のサロン)」 * 障がい児支援(東京家政大学わかさグループ) * 東京都北区との連携「高齢者ふれあい食事会」および「フレイル予防研究」の実施 * 地域医療機関との連携事業「ピンクリボン運動」の実施 * 大学卒業後の就労選択として農業を考える「ワークライフバランスin農業女子プロジェクト」の実施 * その他 		
食育活動写真(任意)	 <p>【学生有志団体主催イベント 食リンピック】 【ワークライフバランスin農業女子プロジェクト】 【学生と地域の親子の発想で生まれた 食育おもちゃ】</p>		
活動の効果	大学の学びを地域のニーズと結び付けたwin-winの関係づくりにより、多業種との連携が広がりつつある		
継続への課題	連携をコーディネートする担当者の安定雇用		

■ 連携を希望する取組について

連携を希望する業種等	農業、生産者団体、企業
取組内容	特産品を使ったレシピ開発、商品開発、デザイン、外国人へ向けた日本文化の発信、農業等で、大学生のアクティブラーニングになり得る連携

■ 朝食の摂取及び食文化の継承について

	朝食の摂取	食文化の継承
朝食の摂取及び食文化の継承について、思いや語ってみたいこと、エピソードなどをご記入ください	授業中に寝てしまう大学生がいるのは日本の大学の特徴とまで言われていますが、朝食の欠食も影響しているように思います。若い世代へ向けた健康的なライフスタイルへ向けた取り組みの事例と効果について知りたいです。	今年7月に商業捕鯨の再開が決定しました。1000年以上の鯨食文化をもつ日本ですが、国際情勢により約30年もの間鯨を食べる機会をほぼ失っていました。このプランクにより、クジラを食べたことのない若者や鯨肉を食用と認めない人が増えた現状から、今後どのように鯨食文化が復活していくのか、復活できるのか大変興味があります。